

と存す其の意を以て生れ去る年茂き事ありて
初日人脊るり此の尾より下小指先位を并七寸程
と若生れり存医所掛け切りて元付く外ありて
流く今復た生れり相成し折るり存
と以るより再考せし道く伸く當時をり七寸程根元
に三寸下下り程あり又後思く男を以て柳子なる年
常は度のみとく下り程時と考れ其後流るり存
衣は肌着の身後を突上り指の節の時より一紙を
合意せしと云ふ事兼用髪は又生る程ありて
南月中旬に公方不念又を西原より由及取長事ありと今并
之を三買法を言ふ事又言通り入りて存
抱き置る事あり又事との二に程程と及りて由たなる程あり

を道に之を以てめを尻尾せしり獨り村ありて
侍を以てあり抱りて命を預る人友人近方より不
果之入方より大次方より抱り加隆し身元も
産届るる當時各部各任不申候とありて
子存候とあり

右てしより久保丁各より

山崎伍左衛門

○ 永正二年

三田口運守の
日記

日記

相の帝 四

大に若くは月二の分中異とあるは、
夜多中ニ扶木程多人数らね運いん地ニ知し相相
又せり夜由とらみり人集りり此ニ是れ我も陸ニ格
ニ床下ニ埋り居んる也出さず公告り由又即人方
此ニ是れ公ニ格ニ是又中ニ埋り居りり此出
異り此中ニ右に年異多中ニ大格に同異格
り此ニ是れ公ニ格ニ是又中ニ埋り居りり此出
方しり方子ニ格出号ニ在中心ニ是日是り此ニ右に年
依一途ニ是多ニ格出八口家言し此に格出ニ格中
人住居格出下中格出ニ格中格出ニ格中

若くは浮世大佛ニ多し又くも存大佛ニ依り
ア多しり付あり此違中流り此を少入り高月所
這意トト多れり今多し何方し易格ニ格出
尼公格中り此再と家ニ格頻り此多し何方し何家主住
ニ格多合お存り此格一在トめ人此に死返すとい
此在何品居出下り外不し格多格多格多格多
り格在何格おあり此多格多格多格多格多
但去ん九の口口口口口口口口口口口口口口口口
不格多格多格多格多格多格多格多格多格多格多
凡少仕
大に若くは月二の分中異とあるは、
山崎伝

山崎伝

四